

NEWS 細見

ニュース・さいけん

食品ロス問題 学んで自分事に

サポーターの函館短大

函館短大食物栄養学科は今年度、農水省が実施する「国際果実野菜年2021」のオフィシャルサポーターに登録し、野菜、果実による健康的な食生活の啓発や食品ロスをなくすための学びを進めている。同学科は学生たちに「学んだ成果を発信する意義や大切さを体感してほしい」と期待を寄せている。(鈴木 潤)

国際果実野菜年は、国連科は今年度、ゼミ学習を中総会で採択され、栄養・健康面に、食料の安全保障の観点から、野菜の利点を国際的に啓発し、消費を促す取り組み。持続可能な開発目標(SDGs)の飢餓人口をゼロにする目標達成の一環でもあり、食品ロスを減らす取り組みも推進する。

農水省は、国際果実野菜年を企業や団体と協力して国内へ広く周知しようと、今年度オフィシャルサポーター制度を創設した。同学

科は今年度、ゼミ学習を中総会で採択され、栄養・健康面に、食料の安全保障の観点から、野菜の利点を国際的に啓発し、消費を促す取り組み。持続可能な開発目標(SDGs)の飢餓人口をゼロにする目標達成の一環でもあり、食品ロスを減らす取り組みも推進する。

規格外野菜でメニュー考案



オフィシャルサポーター活動の一環で農作業を体験する学生(8月)

同学科は1、2年生約80人が在籍。このうち、学科長の澤辺桃子教授が指導する1年生のゼミが、規格外で廃棄処分される農産物の

程や生産現場での農産物の廃棄の現状について理解を深めた。この訪問をきっかけに、規格外で売り物にならない野菜を活用し、栄養価のあるメニューの考案を進め、学内での試食会も検討する。

また、授業とは別の課外活動では先月下旬、北海道国際交流センター(HIF)が運営する子ども食堂で提供する、ハロウィーン向けの弁当の献立を考案。HIFと第一生命保険函館支社と連携した取り組みで、実習で扱ったメニューをアレンジした。1年生3人が野菜の栄養価について分かりやすくまとめたリーフレットも配布し、「学んだことを子どもたちのために形にできた」と振り返る。

澤辺教授は「地域の課題解決として取り組んだ内容が世界につながっていることを意識してほしい」とサポーター活動の狙いを話し、「サポーターとして発信する立場になることで食品ロスの問題などを自分事と意識しながら学ぶことができた」と成果を話す。